

地区版第25号

発行日：令和3年2月20日



たちばな会だより

発行者：社会福祉法人たちばな会
理事長 二橋 寛
住 所：浜松市浜北区於呂514
電 話：(053) 588-3214

正月寒波で明けた令和3年も既に一月が過ぎ、梅の便りも届くようになりました。

たちばな授産所及びサンステップでは、手洗いやアルコールによる手指の消毒・マスクの着用を含む咳エチケット等新型コロナウイルスに対する感染予防に気を遣いながら、利用者さんが日々元気に通って来ています。昨年4月に全国に緊急事態宣言が発令された際には、部品組み立てを中心とする事業所の生産活動は大きく落ち込みましたが、10月以降は持ち直していますので何とかこの状態が続いてくれたらと期待しています。しかし、人が集まるような行事、あるいは密閉空間を利用するような外出は一年を通して中止せざるを得ませんでしたので、利用者さんには相当ストレスをため込んでいるのではないかと心苦しく思います。当面このような厳しい状況は続くと思いますが、大きな地震や水害と同様新型コロナウイルス感染症の場合でも、「まさか自分は感染しないだろう」とか「周りの人が罹っていないのだから自分も大丈夫」等々、正常性バイアスとか同調バイアスとか云われる心の防御機能によって危険を正しく認識することが妨げられるということです。想像力を働かせて、「職員やその家族、利用者さんとその家族あるいは関係する企業等で感染者が出た場合どうすればいいか」しっかり対応を考えておきたいと思います。

さて、この時期は来年度の事業計画を策定する時期でもあります。これまでに実施した事業の内容について利用者さんや家族の立場に立ち、求められたことにどれだけ応えられたかを振り返りながら、国から求められている一般就労への移行や自立生活に欠かせない一定水準の工賃支給、感染症や災害に対し事業継続を可能とする対策強化、虐待防止等を踏まえた上で、日常生活や生産活動、健康面や安全面、余暇活動等多岐に亘って利用者さんが充実した日々を送ることが出来るよう支援の内容を検討していきます。

また、建設後35年が経過するグループホームすだちの建て替えも計画に上がってきました。設備の経年劣化で買い替えが必要になる等費用増と相部屋での利用が現行の制度に合わなくなってきたためですが、建て替えには用地の確保を始め各種の手続等で多額な資金を必要としますので、入念な計画のもと取り組んでいきたいと思ひます。

地域の皆様には、これまで同様の御理解と御支援をお願い申し上げます。 (施設長 山下敏明)

”疫病退散”祈願

たちばな授産所では、新型コロナウイルス退散の願いをこめて、授産所版”アマビエ”を作りました。伝えられている妖怪のイメージに比べ、愛嬌のあるところが味噌でしょうか。



行事の紹介

地域の皆様に支えられて

※実施日（たちばな授産所／サンステップ）

【今年の節分は2月2日】R3. 2. 2

節分が2日になるのは明治30年以来、124年ぶりとのこと。ここしばらく節分は2月3日でしたから「あれ、どうして？」と疑問に思われたかもしれませんが、地球が太陽を1周するのに365日ぴったりでないからずれるのであって、今度2日になるのは4年後の2025年のようです。

授産所やサンステップでも豆まきをしたり、恵方巻きを食べました。



【紅葉狩り～法多山】R2. 11. 27



【プチ納涼祭】R2. 8. 8



【交通安全教室】

R2. 12. 25



【書初め】R3. 1. 17



【防災訓練】R3. 2. 17



絵画作品を寄贈していただけますか

利用者さんは、毎日一生懸命作業に取り組んでいます。事業所内は実用一点張りで”潤い”に欠けていると思っています。

そのため、地域の皆様をお願いしたいのですが、個人の趣味や同好会活動で制作したあなたの作品（風景画や静物画、10号サイズ以上）を当施設に寄贈していただけないでしょうか。作品は右のスペースでもって大切に展示をさせていただきますので、是非ご協力をお願いします。



連絡先：たちばな授産所
電話：053-588-3214
担当：山下